

議事録 2012 年 12 月 6 日外国語教育に関する会議概要

2012 年 12 月 6 日、初等部校長 Houdoin 氏の呼びかけによりホール (Auditorium) において第 3 過程 (cycle 3) における外国語コース編成についての会議を開催しました。この会議では、質問をまとめて会議項目を決定するため、LFIT から保護者へ質問事項を用意していました。当日、Houdoin 氏、及び言語担当教員の出席のもと開催され、保護者において生徒達の外国語学習のさらなる理解に役立つようにという意向から、様々なコースの詳細を説明しました。

会議の枠組

Houdoin 氏のコース編成概要の説明から始まりました。Negoro さんが同時通訳をされています。続いて、日本語教員が学年ごと (CE2、CM1、CM2) に授業内容を発表し、その間に出席している保護者が質問を記入、それらは集められスケジュール終了時に討議されました。次に、英語教員が同様の発言を取りました。

コース詳細

LFIT は近いうちに現在のコース詳細をサイトに掲載する必要があります。この議事録では、外国語コース編成全般についての要点を以下に記録するだけにとどめます。

Houdoin 氏の説明

会議スケジュール

来年度、外国語コース説明会議が年度内に例年より早い時期に開催されます。

現行の状況

コース編成を総括するにはまだ早すぎます。まず、すでにある外国語コース編成が機能することが重要です。外国語教育に関する委員会 (la commission langue) が 1 月に職務を再開します。

相談

外国語コースにおける学習に関する全質問について、保護者は最初に外国語教員に相談するべきでしょう。

コース変更

これからコース変更の申し出は、3 ヶ月ごとの学期終了時にのみ教職員会議 (conseil des maîtres) にて審議します。保護者や教員の申し出によって変更が可能です。

協議

外国語担当教員は、週 1 回 1 時間、言語部門 (日本語及び英語) ごとに集まり、教授法の調整や資料

作成などをします。また、全外国語教員の会議が Houdoin 氏参加で毎月開催されます。

経過について

この外国語コース編成は、コースの個別化を目的として設置されました。生徒は前年週2時間であったところを週3時間15分まで言語学習できます。ただし、《コースの個別化》は《コースの個人化》を意味するものではありません。選択はフランス学校制度枠内からなされ、又、教室や教員数により制約があります。各教員はクラス内で生徒のレベル差があってもうまく運営しなければなりません。

クラスの配分について

生徒の30%が Parcours 1、21%が Parcours 2、29%が Parcours 3、20%が Parcours 4 になります。

規定で、各クラスで45分、EMILEで1時間となっています。

日本語教育

Tomala 教員は CE2、Oki 教員は CM1、Dabosville 教員は CM2 の parcours を全般的に説明し、Kasuga 教員が Oi 教員の代行として出席しましたが、特に発言はありませんでした。Parcours 1 と 2 は日本語で、Parcours 3 と 4 はフランス語でそれぞれ説明されました。

概要

- cahier de japonais 又は cahier de texte で宿題を指示します。
 - EMILE は science や geographie (この 2 つは交互に行われます) に関連しています。Ministere de L'Education nationale francais 高等教育研究省の指導で定められた内容を日本語で教授するために、教員自身で補助教材を作成しています。EMILE ではフランス課程を外国語で学習しますが、histoire はこの枠内に入りません。初等部生徒が日本語でフランスの歴史授業をうける正当性が見当たらないためです。
 - parcours 1、2、及び 3 では 4 分野で評価されます：話す、聴く、読む、書く
- Parcours 4 では口述評価のみになります：話す、聴く

特性

- parcours 1 では、生徒が LV1bis レベルを中等・高等部でついていけることを照準とします。ここではテストを頻繁に実施します (週 1 回、特に漢字)。
- parcours 4 では、定型表現、プレイロール、歌などの学習を土台にして教授しています。筆記についての学習はありません。
- CM2 では、日本の文部科学省が古典の導入を必修にしています。この学年で詩選集の百人一首、及び俳句を教授します (parcours 1 及び 2)。チャレンジとして日本語読本があります (parcours 1)。
- CM2 終了時に、CECRL (Cadre Europeen Commun de References pour les Langues 言語についてのヨーロッパ共通基準枠組み) のレベル 1 を生徒が習得することを目的としています。Parcours 4 は口述分

野のみの学習範囲であるため、全生徒に適切であるかは明らかではありません。

保護者の質問における他の議論点

滝野川第六小学校との交流

この近隣小学校と交流関係が結ばれました (petite section の訪問など)。この交流ではさらに明確な教育的活動を検討しています。

視察

2013 年内に視察官訪問を要望しています。その目的：外国語コースの評価、及び当施設全体の教員構想 (特に、教員が各クラス内で識別化できるかなどについて)。そのためには、幾つかの現実的な問題を解決しなければなりません。すなわち、初等部と高等部の両方を評価できる日本語担当視察官がほとんどいないこと、視察官の旅費等を LFIT の自己資金で賄うこと、があります。

教科書

LFIT は、実際に使用されている教科書の最新版購入を検討しています。リセで使用されている教科書は日本の学校ですでに授業に使用されてないからです。日本の学校では教科書は無償です。LFIT でもこの恩恵を受けられるか確認します。

Parcours 1 と日本の学校間の等価性

Parcours 1 では、日本の学校のように生徒が日本の大学に入学できるコースであるべきです。卒業時、習得している漢字数は日本の学校のものと同様ですが、言語授業時間のため同様の成果を得ることは不可能です。さらに、LFIT の生徒は日本の学校の生徒とずれがあります (CE1 で使用される教科書は小学校 1 年のものです、等)。

年齢別クラスよりむしろ学力別クラスの編成

これは検討する可能性があります。学年末に議論されます。

Parcours 1 と英語レベル

Parcours 1 の生徒が英語上級コース週 1 回を受けられません。

初等部と中等部とのつながり

6^e の初めに、生徒のレベルを評価します。初等部での parcours は中等部のレベルと決まっているわけではありません。バイリンガルクラスは OIB ではなく classe europeenne に進みますが、バイリンガルクラスの生徒が OIB に十分なレベルである場合に、進路変更の可能性があります。

英語教育

Houdoin 氏は通訳の必要性を問いましたが、これに対し誰からも反応がありませんでした。教員は最も話しやすい言語で parcours の説明をしました。Pasquin 教員は CE2 (フランス語で)、Gutierrez 教員

は CM1 (英語で)、Grangie 教員は CM2 (フランス語で) を説明しました。

概要

- 学期ごとに決められたテーマから学習をすすめます。たとえば、periode 1 は自己紹介、periode 2 はハロウィーン、数字、periode 3 は新年、持ち物、periode 4 は趣味、スポーツ、国家、periode 5 は将来について、などです。テーマは、クラスのレベルや parcours の選択により、時間数や掘り下げ方が様々です。
- コミュニカティブな教授法です。生徒は 2 人又はグループでの学習を求められることがよくあります。
- テーマ学習について、periode ごとに評価を行います。
- クラス内で他教材を使用していたとしても、学習をすすめるうえで教員が使用する教科書は、*Let's go* になります。
- 教授言語は《international English》であり、anglais と American の差異に関する微妙な問題は、例外を除いて初等部で導入しません。
- parcours 1 では 4 分野を学習しますが、口述が優先になります。
- CM2 終了時に、parcours 1、2、及び 3 では、CECRL においてレベル 1、Parcours 4 ではレベル A2 が照準です。他では、世界的に認められている検定 (Cambridge Young Learners English) は検討中です。ここでは 3 レベルあります : Starters、Movers、Flyers

今年度の 2~3 月に新たに会議が開かれます。